

一橋日本史予想論述チェック表【古代・中世 文化史】

【問題】	【POINT】
飛鳥寺の伽藍配置の特徴	●法隆寺や四天王寺では塔と金堂は各1であるが、飛鳥寺は塔の三方に金堂を置くー塔三金堂の伽藍配置
他の伽藍配置を簡潔に説明せよ	●塔と金堂が左右にならび、奥に講堂があり、中門から左右にのびる回廊がこれらをとりまく ●法隆寺式●金堂の前に東西両塔がならぶ薬師寺式●中門から出る回廊が金堂にとりつき、南大門との間に双塔を配する東大寺式●南大門の南に双塔を配する大安寺式
飛鳥寺造営時点の文化に直接影響を与えたのはどこの文化	●中国の南北朝時代や、朝鮮半島の百済・高句麗の文化
法隆寺に関する論争	●法隆寺焼失の記事の存在から再建・非再建の論争が生じたが、若草伽藍の発掘から再建設が有力視
6世紀における仏教の受容過程	●仏教は当初、司馬達など一部の渡来人のあいだで信仰されていた●ヤマト政権のもとに公式に伝えられたのは6世紀前半、百済の聖明王が欽明天皇に仏像・経論などを伝えたのが最初●受容に積極的な蘇我氏と神祇信仰を尊重して反対する物部氏・中臣氏とのあいだで対立●6世紀後半、蘇我馬子が対立する物部守屋を滅ぼして以降、朝廷が仏教興隆をはかった結果、蘇我馬子の飛鳥寺など、中央豪族による寺院の建立が進み、古くからの神祇信仰との併存が進んだ
飛鳥文化の特徴	●当初は渡来人や蘇我氏など限られた人々によって信仰されていた仏教が、国家の保護を受けるようになって広く浸透し、最初の仏教文化
飛鳥文化の内容	●仏教興隆の詔が出され、仏教が政治の基本に据えられた ●大王家や諸豪族は、古墳にかわってその権威を示し、氏の政治的結集の場とするための氏寺を建立 ●氏寺…蘇我馬子が発願した飛鳥の飛鳥寺(法興寺)、厩戸王の発願による四天王寺・斑鳩寺(法隆寺)、秦河勝の発願による広隆寺など ●礎石の上に丹塗の巨大な柱をおき、屋根を瓦で葺いた、これまでの倭国の建築様式、従来の掘立柱とはかけ離れた規模と様式をもつ寺院 ●大王が造営した初めての寺院⇒百済大寺 ●北魏様式⇒整った厳しい表情のなかに、古式微笑をたたえ、超現実的・象徴的な印象 南梁様式⇒温かみがあって崇高な印象 ●墨倣⇒高句麗から紙・墨の製法、彩色の技法を伝えた、 親勅⇒暦法や天文地理学の書を伝えた ●その他…法隆寺の玉虫厨子のほか、中宮寺の天寿国繡帳、厩戸王⇒「三経の義疏」という、法華経・維摩経・勝鬘経の三つの教典の注釈書

白鳳文化の背景	<ul style="list-style-type: none"> ●天武天皇は伊勢神宮を中心とする神祇制度の整備を進め、大嘗会の制を確立したが、同時に仏教も篤く保護し、国家による統制を強め、国家仏教の確立を目指した。
藤原京の特異点	<ul style="list-style-type: none"> ●従来のように様々な職務を有力な王族や中央有力貴族の邸宅に分散させるのではなく、天皇の住む宮城の中に朝堂院、大極殿、様々な職務を担う官庁が整備 ●日本史上で最初の条坊制を布いた本格的な唐風都城 ●それまで、天皇ごと、あるいは一代の天皇に数度の遷宮が行われていたが、3代の天皇に続けて使用されるなど宮都として一定期間固定されたことで氏族制から官僚制への転換を促進させた
国家の安泰を願って導入された思想名とその役割	<ul style="list-style-type: none"> ●鎮護国家思想 ●仏教が国家と緊密に結びついてその支配を支える宗教的背景
7世紀後半から8世紀にかけて仏教が受容されていく過程を説明	<ul style="list-style-type: none"> ●7世紀後半…朝廷は都に官寺を建立、地方の郡司層による氏寺の建立 ●8世紀半ば…朝廷が諸国で国分寺・国分尼寺の建立、行基の協力を得て大仏造立事業を、神仏習合の風習
行基の非難された点と称賛された点	<ul style="list-style-type: none"> ●僧尼令で禁じられていた民間布教を行って非難されたが、民衆の支持を背景とした政府の要請に応じ、大仏の造立に協力して称賛され、大僧正の位を受けた
天平文化の特色	<ul style="list-style-type: none"> ●天皇・貴族たち為政者や一部の僧侶など限られた階層の人々が享受 ●遣唐使などの影響により、盛唐の文化に強く影響を受け、また遠くシルクロードを経た西アジアや南アジアの影響を受けた品々など、国際色豊かな性格 ●国家仏教の影響も強く、寺院を中心とした仏教文化
天平文化を具体的に説明	<ul style="list-style-type: none"> ●瓦葺きの礎石建物 ●法隆寺伝法堂、唐招提寺講堂、東大寺法華堂・唐招提寺金堂や校倉造の倉庫の正倉院宝庫 ●塑像…木を芯にして粘土で塗り固めた (東大寺法華堂の日光菩薩像・月光菩薩像など) ●乾漆像…原型の上に麻布を幾重にも漆で塗り固めて後で原型を抜き取る(東大寺法華堂の不空羂索観音像、唐招提寺の鑑真像など) ●絵画⇒鳥毛立女屏風の樹下美人図、吉祥天像など ●正倉院宝物⇒螺鈿紫檀五絃琵琶など ●百万塔陀羅尼(年代の確実な現存印刷物として世界最古級)(称徳天皇が惠美押勝の乱後に発願) <ul style="list-style-type: none"> ●「古事記」…古くから宮廷に伝わる「帝紀」「旧辞」をもとに天武天皇が神田阿礼に読みならわせた内容を太安万侶が文章化したもの、(天地創造、日本の国生み等) 「日本書紀」…舎人親王を代表として中国の歴史書の体裁にならって編纂されたもの、(神話・伝承を含めて神代から持統天皇にいたるまでの歴史) 「風土記」…郷土の産物、山川原野の名の由来、古老の伝承などの筆録(現在は常陸・出雲・播磨・豊後の5か国が伝えられる) 「懷風藻」…現存最古の漢詩集

	<p>「万葉集」…天皇から庶民にいたるまで多くの人々によって広く詠まれた和歌を約 4500 首収録</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央に大学…五位以上の貴族の子弟などを優先 地方に国学…郡司の子弟を優先 ●蔭位の制…五位以上の貴族の子などに特権的な官人コース ●南都七大寺…薬師寺・大安寺(もと大官大寺)・元興寺(もと法興寺(飛鳥寺))・興福寺・東大寺・西大寺・法隆寺 ●南都六宗…三論・成実・法相(義淵)・俱舍・華嚴(良弁)・律 ●本朝三戒壇…東大寺・筑紫観世音寺・下野薬師寺 ●光明皇后⇒悲田院を設けて孤児・病人を収容し、施薬院を設けて医療にあたらせた
芸亭の説明	● 石上宅嗣 は自邸を寺とし、 仏典以外の書物 も蔵する今日の図書館のような施設を置いて芸亭と名付け、学問する人々に開放
大学別曹を簡潔に説明せよ	●平安時代以降、貴族がその氏族出身の子弟のため設置した学問所●藤原氏の 勸学院 、橘氏の 学館院 、和気氏の 弘文院 、在原氏の 奨学院 、大江・菅原氏の 文章院 など
六国史を挙げる	●『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』
和気広虫の功績	●藤原仲麻呂の乱の処刑者の減刑や乱後の捨て子の収容などを行なった。
奈良から平安前期にかけて、神々への信仰への仏教による影響	●奈良時代… 神仏習合思想 が広まり、 神宮寺 が建立され、 神前読経 が行われるなど、神々への信仰に仏教が浸透し始めた●平安時代前期… 神々の偶像化 が進み、神々と仏を同体とする考えが生じ、神々への信仰が仏教の教義を借りて体系化され始めた。
綜芸種智院の創立者と大学・国学との違い	● 空海 ● 大学 ・ 国学 は身分制限があり、儒教中心であるのに対して、より広い立場で儒教・仏教・道教を教えた。
密教の内容と貴族層の支持を得た理由	●教学研究センターの顕教に対し、秘密の呪法の伝授・習得により悟りを開こうとするもの●密教は 加持祈祷 をよく行い、 国家・社会の安泰 を祈ったため、 現世利益 の面から天皇や貴族たちの帰依を集めた
弘仁・貞観文化の特色	●平安京で律令制を改革して 文章経国 が図られ、文人貴族が登用●貴族たちは平安京において都市貴族化する一方、文化的には唐文化を摂取して自らのものに消化した段階を迎え、宮廷で漢文学が発展●仏教では新たに天台宗や真言宗が広まり、 密教 が盛んになった。
弘仁貞観文化の寺院の立地や伽藍配置の特徴	●密教は、山岳の地に伽藍を営み、山中を修行の場としたため、室生寺のような、形式に捉われない、地形に応じた伽藍配置の寺院が造られた。
物忌とは	●日取りや夢見が悪かった時などに、一定期間自宅など特定の建物の中で謹慎すること。
浄土教を密教と比較して簡潔に説明せよ	●阿弥陀仏の極楽浄土に往生し成仏することを説く教え● 現世利益 ・ 貴族や僧侶中心 の密教に対し、末法の世における救いを求め、 全ての衆生 の来世での救済を説いた
10 世紀から浄土教の信仰が広がった社会的事情	●律令の支配の体制が崩れ、地方有力農民の成長を背景に反乱や武士団が台頭し、都の貴族・庶民が不安に●阿弥陀仏による来世での救いへの期待

平等院鳳凰堂についての浄土教の影響	●極楽の蓮池をかたどった池に面し、定朝が作った阿弥陀像を本尊に●扉や壁に 来迎図 を配して浄土そのものを具現
本地垂迹説の具体的な例	●伊勢神宮の 天照大神 を、密教で最高の大日如来の化身とした。
密教・浄土教の受容のあり方を説明	●律令体制が変質して社会秩序の動揺が進む中、災厄や疫病が相次いで社会不安が高まり、さらに 末法思想 が広がった●密教や浄土教は広く受容された●密教は 加持祈祷 によって鎮護国家の法会を担い、 現世利益 にこたえて、寺院造営や荘園の寄進など朝廷、貴族からの保護●来世での幸福を説く浄土教は、空也など 聖 の活動を通して普及し、 寄木造 の技法が大量の仏像需要に応えたこともあり、貴族や地方の有力者によって阿弥陀堂が建立
醍醐天皇の文化事業	●三大格式の最後である「延喜格」、「延喜式」の編纂や、最初の勅撰和歌集である「 古今和歌集 」を撰集させた
文章経国思想を簡潔に説明せよ	●文芸は国家の支柱で、国家の隆盛の鍵であるとする思想。
三筆を説明せよ	●嵯峨天皇・空海・橘逸勢
空海の書を挙げよ	●「性霊集」、「文鏡秘府論」、「三教指帰」(儒教・道教・仏教のなかでの仏教の優位を説く)、「十住心論」(真言密教の境地に至る道筋) ※教王護国寺
現存する日本最古の説話集と作者	●「日本霊異記」●景戒。
室生寺の性格	●女人禁制の高野山に対し女人高野と称し、女人の登山参詣を許した。
弘仁・貞観期から摂関期にかけての文化の展開	●唐を中心とする国際秩序が解体し、国内では律令国家の再編成により貴族社会の編成原理が官僚制原理から天皇との私的関係へと変質、 唐風文化の吸収の上に文化の国風化 ●文芸…「 凌雲集 」・「 文華秀麗集 」・「 経国集 」など勅撰漢詩文集も成立 漢詩文の教養が重視(「和漢朗詠集」・「本朝文粹」)、かな文字の確立を背景に和歌(「古今和歌集」)など、 かな文学 が隆盛し、日記(「土佐日記」・「蜻蛉日記」)や物語文学(「源氏物語」・「栄華物語」)も成立 ●絵画…大和絵(巨勢金岡)、書道では和様(三蹟…小野道風・藤原佐理・藤原行成)など、貴族の服装では唐風の装束を日本風に改良した 束帯 が男子の公用服とされるなど、日本風のものが好まれた。輸入された絹織物などの唐物も珍重された ●宗教…密教が現世利益をもとめる貴族に普及する一方、神仏習合が進み、さらに穢れ忌避意識が肥大化する中で新たに浄土信仰(源信の「往生要集」・慶滋保胤の「日本往生極楽記」)が広がった。生活では貴族の住宅が和風の 寝殿造 へ変化し、服装や調度品などの 和風化 も
10世紀から11世紀前半の貴族社会において、日記が書かれた目的	●摂関政治期の宮廷社会では 先例 が重視され、重要行事を担う貴族は自らの備忘録として、また家の維持を図るために日常や朝廷に関する出来事を記録
平安時代中期の宮廷社会において、中宮や皇后はどのような女性	●摂関家である藤原氏の娘が中宮や皇后となり、 外戚関係 の維持のため、将来天皇となる皇子を生むことが期待された。
陣定の説明	●内裏の近衛の陣で行われ、天皇の決裁の参考にするため、太政官に属する公卿たち

	が外交や地方行政などの重要な審議に関わり、その意見が求められた。
内裏はどのように用いられたか	●天皇の居所で、天皇の生活の場や政務を行う場として用いられた。
10, 11 世紀の貴族の食事の特質	●仏教の影響で貴族は獣肉を食べなかった
かな文字の成立とその歴史的意義	●唐を中心とした東アジア諸国の文化圏は、唐の衰退と滅亡によって共通性を失った●各国はそれぞれの風土や伝統にかなった独自の文化を形成したが、その最も顕著な例が漢字の表音文字による文字の成立●日本では万葉仮名を土台として 9~10 世紀に片仮名と平仮名がつけられた●仮名の使用は、日本人特有の感覚の、より豊かな表現を可能にし、国文学を中心とした国風文化が形成●朝鮮ではハングル、西夏では西夏文字、金では女真文字がつけられた。
東アジア諸国の文化的共通性とは	●古代より中国王朝は冊封体制を外交の基本として周辺諸国に対応した。このため、東アジア諸国は年号・政治制度・文字などの面でも中国文化の影響を強く受けている。しかし、中国の冊封下に入ることに對する反発も多く、独自の民族文化の発展も見られる。
三大不如意を説明せよ	●鴨河の水、双六の賽、山法師
六勝寺を説明せよ。	●平安末期、京都の白河に建てられた寺で、法勝(白河天皇)・尊勝(堀河天皇)・最勝(鳥羽天皇)・円勝(待賢門院)・成勝(崇徳天皇)・延勝(近衛天皇)の6寺
院政期の文化の特徴と、それを促進した人々	●貴族文化は、新たに台頭してきた武士や庶民の活動と共に、その背後にある地方文化を取り入れるようになり、新鮮で豊かなものを生み出した●聖と呼ばれた民間の布教者が地方と京都の文化の橋渡しをした
院政期の文化を具体的に説明	●藤原明衡『新猿楽記』⇒さまざまな階層の人々の生態を記す ●大江匡房『傀儡子記』『永長田楽記』⇒芸能に関わる人々の動き 大江匡房『江家次第』⇒年中行事や公事の実際 ●田楽などの庶民的芸能は貴族の間に流行、猿楽も ●説話集…『今昔物語集』 軍記物…『将門記』、全九年合戦を描いた『陸奥話記』など ●後白河法皇の『梁塵秘抄』 ●催馬楽、朗詠 ●『伴大納言絵巻』、『信貴山縁起絵巻』、『年中行事絵巻』、『鳥獣戯画』、『源氏物語絵巻』 ●上皇や貴族による高野山・熊野三山・観音霊場などの霊場参詣 ●『扇面古写経』、『平家納経』 ●地方の豪族が京都の文化を積極的に取り入れており、各地に宗教文化が伝播 奥州藤原氏⇒平泉の中尊寺(藤原清衡)、平泉の毛越寺(藤原基衡) 地方豪族のつくった阿弥陀堂や浄土教美術⇒陸奥の白水阿弥陀堂や、九州豊後の富貴寺 大堂や臼杵の石仏
平安末・鎌倉時代の宗教家の出現と背景	●平安末・鎌倉時代は荘園公領制の成立・展開期●顕密寺院(旧仏教)は荘園を集積し、さらに荘園・公領の秩序維持を宗教面から担った。そのため各地で聖が布教に努め、また貞慶や明恵のように戒律の復興を掲げ、世俗化し墮落した仏教のありかたを批判し、観尊や忍性のように非

	<p>人救済など社会事業を通して民衆への戒律の普及に努めた●武家政権の成立・発展の中で武士による在地支配が強まり、農業や経済流通の発展を背景として各地で農民や商人、職人が成長●法然・親鸞や日蓮のような易行・選択・専修という特色をもった新仏教は、顕密仏教の宗教的な呪縛から自立しようとする武士や民衆の期待に応えた</p>
<p>平安時代における東大寺の焼失と復興</p>	<p>●治承・寿永の乱の際、東大寺は興福寺と共に反平氏勢力となったため、平重衡によって南都焼打ちを受けた●後白河法皇の命令を受けて勸進上人として復興に着手した重源は、朝廷や頼朝からの援助のほか、広く人々から寄付を集めて、資金を調達した。建築様式では宋の工人陳和卿の協力を得て、南宋の寺院建築を模範とする大仏様が採用、東大寺南大門を代表的な遺構とする大仏様は、大陸的な雄大さ、豪放な力強さを特色とした。</p>
<p>東大寺再建における中国の職人の技術の導入</p>	<p>●宋から招いた陳和卿の協力を得て大仏様の建築様式を導入し、東大寺大仏殿の再建を行った。東大寺南大門はその代表的遺構である。</p>
<p>鎌倉文化の特色</p>	<p>●平安時代の国風文化の伝統を基盤として、新興の武士層や農民層の価値観がつけ加えられて成立した文化●武士や農民の勢力が伸張、庶民の文化●難解な教養を必要としない新仏教の台頭、文字が読めない武士・農民にも親しみやすい語りの文学としての軍記物語の流行、物語を図解した絵巻物の発達●宋や元など大陸の文化がもたらされた</p>
<p>鎌倉文化の具定例</p>	<p>●建築●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大仏様…豪放で変化に富み、美しい構造(東大寺南大門など) <li style="padding-left: 20px;">※運慶・快慶・湛慶らと、その一派の慶派 ・禅宗様…宋の中央様式を移したものであり、急勾配の屋根、反りの強い軒をもつ。細かな部材を組み合わせて、整然とした美しさを表す(円覚寺舍利殿など) ・和様…平安時代以来の伝統的な建築様式で、細かい木割り、ゆるい勾配の椼皮葺の屋根、全体から受ける繊細な感覚(蓮華王院(三十三間堂)本堂など) ・折衷様…大仏様・禅宗様の細部の手法を和様に取り入れたもの(観心寺本堂など) ・武家造…公家の寝殿造をもとにしながら、武家の生活に適するように改造された、実用的で簡素な建築様式 <p>●絵画●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似絵…個人の特徴を前面におし出す(平安時代の大和絵は、人物の顔は一律に引目・鉤鼻の没個性的)→藤原隆信・信実父子 ・頂相…禅宗の僧侶の間で始まった絵で、弟子が人の師になるまでに成長したときに、師が自分の肖像画に賛(漢文の教訓的・宗教的な文章)を書き、弟子に与えたもの ・絵巻物…文字を読めない武士や民衆に歓迎された。『春日権現験記』『北野天神縁起絵巻』『法然上人行状絵図』『一遍上人絵伝』『平治物語絵巻』『蒙古襲来絵巻』など <p>●書道●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青蓮院流…尊円入道親王が藤原行成の流れである世尊寺流にこの新しい書風を加味

	<p>●工芸●</p> <p>刀剣⇒京都の栗田口吉光、鎌倉の岡崎正宗、備前の長船長光</p> <p>陶器⇒白磁・青磁の輸入の影響、加藤景正</p> <p>●学問●</p> <p>・『日本書紀』『万葉集』『源氏物語』の注釈書</p> <p>・金沢文庫…北条実時が称名寺に文庫をつくり、和漢の書を集めて学問の便をはかった</p> <p>隠者の文学…西行『山家集』、鴨長明『方丈記』</p> <p>慈円『愚管抄』、後鳥羽上皇が選ばせた『新古今和歌集』</p> <p>源実朝『金槐和歌集』、『吾妻鏡』、</p> <p>虎関師錬『元亨釈書』(日本最初の仏教通史)</p> <p>日記・紀行文学…『東関紀行』『海道記』『十六夜日記』</p> <p>説話文学…『宇治拾遺物語』『十訓抄』『古今著聞集』</p> <p>随筆…ト部兼好の『徒然草』</p> <p>軍記物語…『保元物語』『平治物語』『平家物語』『承久記』など</p> <p>古典研究…ト部兼方『釈日本紀』、仙覚『万葉集註釈』</p> <p>有職故実(朝廷の儀式や作法について研究)…順徳天皇『禁秘抄』、 後鳥羽天皇『世俗浅深秘抄』</p> <p>反本地垂迹説…度会家行『類聚神祇本源』、『伊勢神道』(国家意識の高揚が生んだ思想)</p>
律宗を代表する二人とその活動	<p>●親尊、忍性●朝廷や幕府の保護を受けて、元寇の際の異国降伏の祈禱や、非人や病気の人々の救済などの社会事業をおこなった。※北山十八間戸</p>
法然・親鸞と旧仏教側の違い	<p>●法然や親鸞…日常生活のままに信心に基づいて平等に救済される道を説いた●旧仏教側…戒律を重視する立場に立ち、朝廷に法然らへの弾圧を求めるとともに、幕府の支持の下で広く民衆への勧進を行い、戒律の遵守や社会事業への参加による功德を進めた</p>
勧進の理念とは	<p>●寺院造営、社会事業などを実現することで民衆を含めた広い階層の人々の抱く社会的・心理的な不安感を仏教により和らげ、人々の意識を秩序づけること</p>
鎌倉時代から江戸時代にかけて低身長化が進んだ理由	<p>●中世…殺生を戒める思想を持つ仏教の影響で牛馬などの獣の肉は穢れとして忌避され、肉食を避けた精進料理も広まった●江戸時代…原則として米が本年貢として納められるものとして幕藩体制の経済的基盤となり、特別視されるようになったため、人口の大部分を占める多くの百姓は、日常の主食として米に比べると栄養価の落ちる麦・粟・稗などの雑穀を日常の主食に</p>
頂相と似絵の違い	<p>●頂相は、禅宗において、師が自らの法を伝えた証に、弟子に与えた、自らの賛を加えた自身の肖像画であるが、似絵は肖像画一般のことである。</p>

百王説を説明せよ	●平安時代末期・鎌倉時代に広まった、天皇は神武即位から数えて百代で尽きるといふ説。神国思想の下で影響力は弱まった。
徳政の意味の変容	●元来、為政者が天変地異などが起こる原因を自らの不徳と認識し、受刑者の減刑や困窮者の債務免除などを実施することであった●永仁の徳政令以降は、債務破棄を意味すると理解され、高利貸資本の社会への浸透が進む中で、あらゆる階層の人々から徳政を求める声が強まっていった。
同朋衆とは	●室町時代、将軍に芸能・技能をもって仕えた者で、出家姿で時宗僧として阿弥号を名乗ることにより、身分差を超えて近侍できた。
有徳人とは	●優れた徳行を積む者、または借上などの経済的富裕者のこと。宗教儀式を通して社会に経済的還元を行うことが期待された。その背景には功德を施すことで富の平準化を図る中世の「有徳」観があった。
初期の茶の湯において流行した方式の一つあげ説明	●闘茶●茶を飲み比べ、茶の産地をあてあう賭け事。
南北朝の動乱を背景とした室町時代の文化の特徴	●近畿地方やその周辺部で農業や商工業の発展を背景として惣村や町という地縁的な自治組織が成長●それを基礎として猿楽・能楽・猿楽・能楽・盆踊り・連歌など集団で営まれ、参加し楽しむ、寄合の芸能が盛んに●これら民衆は京都において融合した公家・武家文化を受容して次第に洗練され、さらに公家・武家に摂取されると共に都と地方の文化交流が広がるなど、身分や地域を超えた文化の融合●日明貿易の推進により唐物や唐絵が流入し、大陸文化と伝統文化の融合も
安国寺建立の目的	●足利尊氏・直義の兄弟が、夢窓疎石の勧めによって国家安穩を祈願し、元弘の変以来、南北朝の戦没者供養のため、日本の各国ごとに建立させた●塔も建立され、利生塔と称した。
天龍寺建立の目的	●足利尊氏・直義の兄弟が、後醍醐天皇の菩提を弔うため創建。
唯一神道(吉田神道)とは	●吉田兼俱が大成●本地垂迹説に基づく両部神道に対し、反本地垂迹説の立場で一切の現象を体系づけた、儒教・仏教をも取り入れた総合的な神道説
古今伝授とは。またその始祖	●「古今和歌集」の故実・解釈などの秘事を弟子に口承伝授すること●初めは東常縁から宗祇に伝えられた
鎌倉から室町の、朝廷側における和歌と連歌の関係	●鎌倉初期…後鳥羽上皇の勅で「新古今和歌集」が成立●鎌倉後期…和歌を母胎に連歌が生まれ、二条良基の編纂した准勅撰の連歌集である「菟玖波集」が成立し、その後は宗祇らによる准勅撰の「新撰菟玖波集」が成立
正風連歌と俳諧連歌の違いとそれぞれの代表者	●正風連歌…和歌の伝統を生かした深みのある芸術的な連歌で、代表は宗祇の「新撰菟玖波集」や宗祇を中心とする3人による「水無瀬三吟百韻」●俳諧連歌…娯楽的・庶民的に発達した連歌で、代表は宗鑑の「犬筑波集」
バサラとは。それが生じた背景も説明せよ	●従来の秩序の崩壊や貴賤・都鄙・僧俗の文化交流を背景として、華美で人目を引く風俗が流行●伝統的権威を無視し、傍若無人なふるまいをする大名をバサラ大名といい、佐々木導誉がその例。
村田珠光の功績	●豪華・華麗な書院の茶に対して、茶と禅の精神の統一をめざして簡素・静寂の侘茶を創出した。
生け花の発展	●室町幕府の同朋、僧侶の間に多くの名手が出て、足利義政に仕えた立阿弥、相阿弥、文阿弥などの同朋衆や、なかでも後世の生け花発展の基礎となった池坊の僧専慶の活躍●次いで池坊専応、専楽の代には伝書もでき、時代と共に造形性を重視し、儒教や仏教の思想による構成法の理論化も進められて芸術性を高めた●江戸時代初期には2代専好が出て立花を確立し画期的発展をとげた。

薩南学派を簡潔に説明せよ	●応仁・文明の乱で地方に下った僧桂庵玄樹(最初は菊池氏の肥後へ)が薩摩国に移り、この玄樹を始祖とし、朱子学を講じながら新しい漢文訓読法の基礎を築いた儒学の学統
室町幕府において禅僧が起用されたのはなぜか	●漢文での外交文書の作成や漢詩文を交わすことを通じた意思の疎通にたけており、東アジアの外交において貴重な人材
五山の禅僧の役割を簡潔に説明せよ	●室町幕府の政治・外交顧問として活躍しただけでなく、幕府の保護の下で手広く金融活動を行い、荘園経営者としても優れた能力を発揮
回遊式庭園とは	●池を中心に築山・中島・橋・遣水などを配し、建物そのものも庭園の要素とする。
初代僧録を記し、僧録を説明せよ	●春屋妙葩●五山・十刹以下の禅宗寺院の管理と、その人事をつかさどった僧職●足利義満により相国寺の春屋妙葩が任じられて以来、代々鹿苑院の院主が任じられた
南北朝・室町時代の禅宗の、幕府との関係や文化への影響	<p>幕府との関係 …●足利尊氏が夢窓疎石に帰依し、足利義満が五山・十刹の制を整備して臨済宗五山派は室町幕府の保護・統制を受けて発展●国家的な祈禱に従事するなど五山僧は幕府の外交・政治顧問として重用●さらに幕府は、祠堂銭を元本に金融業を営むなど豊かな経済力をもった五山寺院に対し住持任命にあたって五山官銭を賦課したり、将軍の参詣にあたって献物・献銭を徴収したり、五山が領有する土地への段銭免除、守護不入特権などへの見返りとしての五山献上銭など五山寺院は幕府財政を支える側面</p> <p>文化への影響 …●經典などを五山版として出版し、絶海中津・義堂周信が五山文学の全盛期を現出、漢詩文や水墨画など中国風の文化を発展させる一方、禅の精神を取り入れた書院造・枯山水・侘茶などの新たな生活文化を形成し、大陸文化を浸透させる媒体となった。戦国期には幕府の衰退とともに五山派は衰えたが、五山に属さない禅宗諸派の林家の僧が地方の武士や民衆の間に広まった。</p>
祠堂銭の内容と運用方法を説明せよ	●おもに禅宗寺院で、死者の冥福を祈るため、祠堂へ供養料、修理料として信者が寄進した銭貨などの財物●中世には貸付銭として運用され、寺社金融の中心●元来、貸付の目的が寺内困窮者の救済にあつたため、低利で、徳政の適用を受けなかったが、徳政一揆では土倉・酒屋と共に寺院も襲撃された。
五山十刹の制を説明	●南宋の官寺の制に倣って禅宗寺院の寺格をさだめ、官寺として最上位の寺格を有する五つの寺院を五山、五山に次ぐ官寺を十刹として保護・統制
金閣と銀閣の特色を、それぞれの文化を踏まえて説明	●金閣…伝統的な公家文化と大陸文化の禅宗文化などの融合が進んだ北山文化を代表し、伝統的な寝殿造りと禅宗寺院の禅宗様を折衷した建築物●銀閣…公家文化・禅宗文化など諸文化の融合の上に生活に根付いた独自の文化が形成された東山文化を代表し、和洋の新住宅建築様式の原型である書院造を下層に採用した建築
東山文化の背景	●応仁の乱後の大名在国化に伴って貴族・連歌師等を媒介とする文化の地方伝播が本格化●乱による典籍焼失により、貴族たちの古典研究活動が高揚
15世紀の地方文化や学問の動向	●守護大名が京都の文化を学んで地方に普及させただけでなく、五山禅僧が各地の寺院に居住して中国文化の普及に貢献●応仁の乱以後、多くの公家や五山禅僧が荒廢した京都を離れて戦国大名の下に集まり、地方で文化・学問が発達●東国では関東管領である上杉憲実が再

	興した足利学校に各地の禅僧や武士が集まり、坂東の大学と称された。西国では大内氏の城下町山口に連歌師宗祇や画僧雪舟らが寄宿し大内版の出版も
足利学校での教育	●禅僧・武士らによって、漢籍をもとに儒学・易学が学ばれていた。
室町・戦国時代における民衆を担い手とする文化	●民衆の生活を題材とし、せりふにも日常会話が用いられた風刺性の強い喜劇である 狂言●絵の余白に当時の話し言葉で物語が書かれ、仏教思想の影響が強い御伽草子●和歌を上句と下句で読み分ける連歌などは民衆の間に広く流行
室町・戦国時代における鎌倉新仏教の広まり	●臨済宗の五山派…室町幕府や守護大名の庇護を受け、上層武士に浸透し、政治・外交の場で活躍する一方、五山版や水墨画などの文化を生み出した●禅宗の林下…戦国大名・地方武士・民衆の支持を得て各地に広まった●浄土真宗…蓮如が出て、畿内・北陸・東海地方の惣村農民に浸透し、一向一揆の基盤●日蓮宗…日親により京都の商工業者を中心に西日本に広まり、戦国期には京都で自治的組織の法華一揆が形成
法華一揆を説明せよ。	●京都町衆の法華宗徒による日蓮宗信仰を基盤とした団結●対立していた一向宗徒の山科本願寺を焼打ちして石山へ追い立て、年貢・地子の免除・自検断など京都市政を自治的に運営
天文法華の乱の背景と内容を説明せよ	●京都町衆を中心とする日蓮宗徒は一向一揆や土一揆に対抗して法華一揆を起こし、京都で大きな影響力をもって、対立・葛藤が続いていたが、これが宗門論争を機に爆発し武力衝突にまで発展●延暦寺の宗徒が、六角定頼の支援を得て法華一揆を破り、京都の日蓮宗寺院二一寺を襲撃破却した事件●この乱により 1542 年まで日蓮宗は京都で禁教に
戦国時代の浄土真宗の地方的展開	●応仁の乱ころ、本願寺の蓮如は教えを平易に説いた御文を使って布教し、信者を講に組織し、北陸・近畿・東海地方に教線を拡大●加賀国では門徒の国人・地侍らが一向一揆を起こして守護富樫政親を滅ぼし、16 世紀半ば以降、本願寺の統制のもとでしばしば門徒たちが一向一揆を起こし、16 世紀後半には織田信長政権と戦ったものの屈服
ヴァリニャーニの功績	●イエズス会の東洋巡察使として来日し、大友宗麟ほか九州諸大名を教化した●活字印刷機をもたらし、キリシタン版を出版
キリシタン大名がキリスト教を保護した目的と入信した人物の具体例	●イエズス会宣教師は、まず大名を入信させ、次いで家臣領民を改宗させた●大名も貿易上の利益、欧風思想への好奇心などから相次いで入信してキリスト教を保護した●大村純忠・大友宗麟・有馬晴信・高山右近・細川ガラシャ など